

令和3年度モニター通信における意見及び回答①

意見

【協働・行政改革】市の財政について（要旨）

市の財政について、分かりやすく「広報いとう」へ掲載したり、子どもたちの社会の授業に取り入れるなどしてはどうでしょうか。

「なぜ観光客が来ると市の歳入が増えるのか？」「歳出の費用科目の詳細はどうなっているか？」など、子どもだけでなく大人も知らない方は多いと思います。知ることで具体的かつ建設的な意見を持つ市民が増えることも期待できると思います。また、結果的に市政に興味をもつ市民が増え、投票率の向上にもつながっていくのではないのでしょうか？

回答

市の財政状況につきましては、毎年広報誌「広報いとう」4月号に新年度予算の概要、6月号に前年度予算の質行状況、12月号に前年度の決算状況と新年度上半期（4月～9月）の予算の執行状況を掲載し、周知を図っているところです。

また、市ホームページの子供向け版「伊東市キッズページ」において、簡単ではございますが、ゴミ処理など日常生活の身近な事業について、どのくらいの税金が使われているのかをまとめ、掲載しています。（URL：<https://www.city.ito.shizuoka.jp/kids/1/6562.html>）

御指摘のとおり、市の財政は市政の根幹となる重要な事項ですので、子どもから大人までより多くの皆さんに知っていただけるよう、魅力的な広報誌づくりも含め、わかりやすく、かつ効果的な方法を検討し、周知に努めてまいります。

小中学校における税の授業につきましては、小学6年生の社会及び中学3年生の公民で行われております。税の授業を行う際には、ゲストティーチャーとして市職員や税務署職員が教壇に立ち、税が社会においてどのような役割を持つのか、税が私たちの身の回りでどのような形で使われているのかを学齢に応じた内容で説明しております。

御指摘いただきました授業への取り入れについては、より具体的・計数的な内容になることから、どのような单元、学齢及び内容で行えば、より市の財政状況について理解を深めることができるかを研究してまいります。

市の財政について	担当：財政課 財政係	電話：32-1251
広報について	担当：秘書課 秘書広報係	電話：32-1173
学校の授業について	担当：教育指導課 教育指導係	電話：32-1911

意見

【協働・行政改革】PRについて（要旨）

市民へもっと市政をPRする必要があると思います。市が実施している事業や地元のイベントなどが市民に伝わっていないと思います。観光客の方々に対して、何でも観光案内所へ行って聞いてと言うのは伊東への不信感にもつながるのではないのでしょうか。

新聞購読世帯やテレビ・ラジオユーザーが減少し、核家族化が進み地域の繋がりも希薄になっていますが、伊東商工会議所や観光協会、旅館組合、伊豆高原観光オフィスなどの加盟事業者が多い団体の会報誌等を通じ、事業者へ市政に関するPRを行うことで、そこに勤めている方が情報を取得し、発信するという流れにつながるのではないかと思います。

ネット上に情報を置いただけでは自分から見に行かなくては見られないですし、SNSもフォロー・フォロワーの関係があって成り立つ発信ツールです。

住んでいる方々全員へまんべんなく何かを実施するというのは難しいですが、市民に伊東を知ってもらえるように広報の予算を活用してはどうでしょうか

回答

市政に関する広報につきましては、現在広報誌「広報いとう」、市ホームページ、CATV、FMラジオ、各種SNS、メールマガジン、LINEなどで情報を発信しているところです。

御指摘のとおり、市民全員にまんべんなく情報を行き渡らせるということの難しさは常々感じており、特に、今回の新型コロナワクチン接種のような、市民全員の安心・安全に関わる事柄で、かつ日々新たに更新される情報をいかにお知らせしていくかについては大きな課題であると考えております。

「広報いとう」につきましては、町内会等を通じて各戸に配布、また、スーパーマーケットやコンビニエンスストアなどに配架するなどし、毎月29,000部を発行しています。各種団体等の会報誌に比べ発行部数は圧倒的に多いですが、「広報いとう」を読まない方も、業務上の必要性から会報誌には目を通す、という方もおられるかもしれませんので、団体等の状況、費用対効果など踏まえて検討してまいります。

広報について 担当：秘書課 秘書広報係 電話：32-1173